

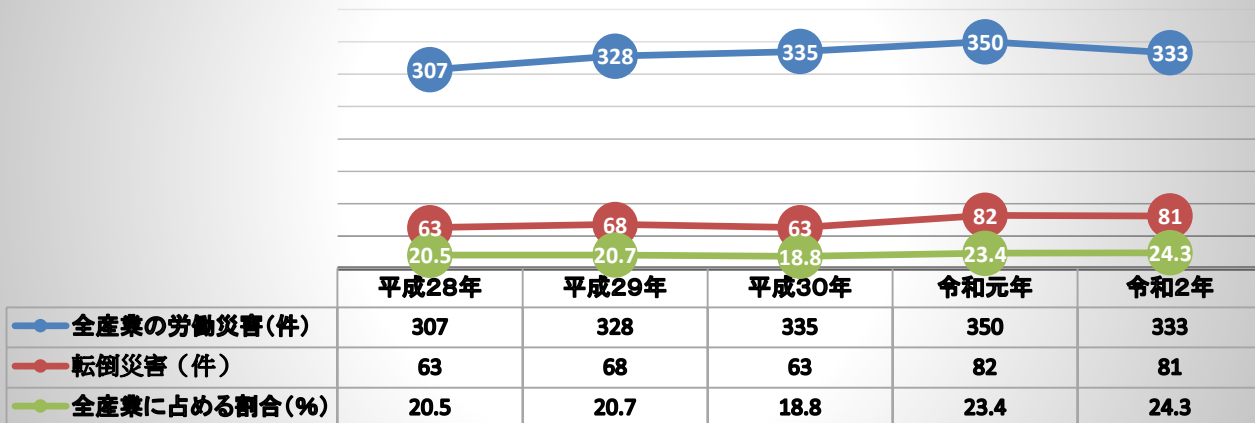
# STOP！転倒災害「～あせらない 急ぐ時ほど落ち着いて～」

## 山口労働基準監督署

全国では、仕事中の転倒災害(休業4日以上)が年々増加しており、令和2年では30,929件(全産業の労働災害に占める割合が23.6%)と、事故の型の中でも最も多く発生しています。転倒災害は骨折などを伴い、長期の休業につながる事が多く、深刻な問題になっています。一方、山口署管内での転倒災害は令和2年に81件(同上24.3%)が発生し、全国同様、最も多い事故の型となっています。

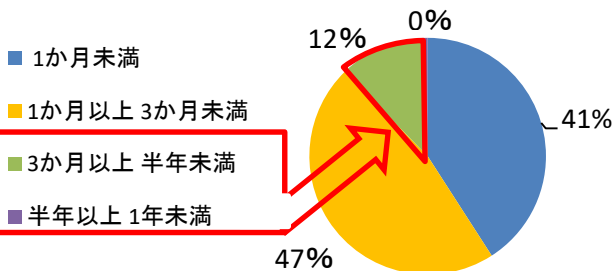
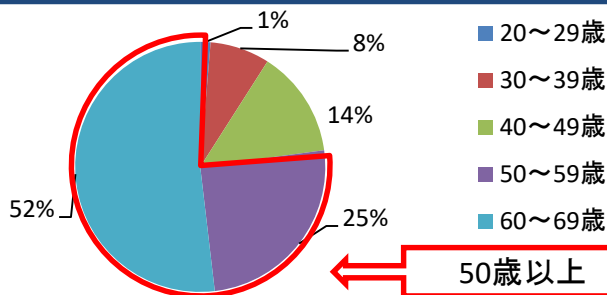
このため、厚生労働省では、平成27年1月から「STOP！転倒災害プロジェクト」を開始し、転倒災害防止のための取組を行っています。具体的な転倒防止対策については、裏面をご参照ください。

### 山口署管内の転倒災害の動向



#### 1 年齢別の転倒災害発生状況(H28～R2)

- 山口署管内では、平成28年から令和2年までの5年間で、休業4日以上<sup>1</sup>の転倒災害が357件発生し、全体の約22%を占めています。
- 災害の発生状況を年齢別にみると、50歳以上の労働者による転倒災害が全体の約4分の3<sup>2</sup>を占めています。

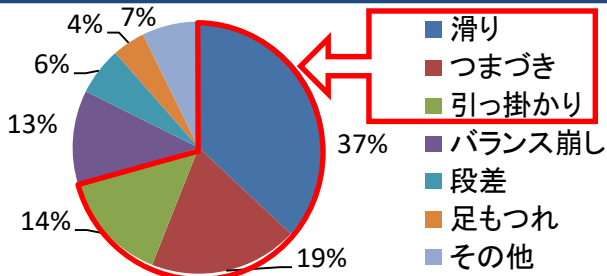


#### 2 休業見込別の転倒災害発生状況(H28～R2)

- 全体の約6割が1か月以上の休業となっています。
- 3か月以上の休業も全体の12%を占め、長期の休業となるケースも少なくありません。

#### 3 転倒災害の原因別発生状況(H28～R2)

- 最も多い転倒の原因は「滑り」で、約4割を占めています。
- 次いで「つまづき」と「引っ掛かり」で、全体の33%を占めており、上位3つの原因で約7割を占めています。



# 転倒災害防止対策のポイント

## ①設備管理面の対策[整理・整頓・清掃・清潔]

- 歩行場所に物を放置しない
- 床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
- 床面の凹凸、段差等の解消



## ②転倒しにくい作業方法[あせらない 急ぐ時ほど 落ち着いて]

- 時間に余裕を持って行動
- 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行
- 足元が見えにくい状態で作業しない



## ③その他の対策

- 作業に適した靴の着用と靴の定期的な点検
- 職場の危険マップの作成による危険情報の共有
- 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起
- 体操による筋力維持・アップ

### <追加対策として>

働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場づくりを目指しましょう。

- 通路を含め、作業場所の照度の確保を行う。
- 階段には、手すりを設け、可能な限り、通路の段差を解消する。
- 解消できない危険箇所(戸口の段差等)に標識等で注意喚起を行う。
- 防滑靴を利用させる。

## あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

### チェック項目

		<input checked="" type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいますか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>